

令和4年度 自己評価 まとめ

令和5(2023)年3月

評価：とても思う…4 そう思う…3 あまり思わない…2 思わない…1

平均3.5以上

平均3未満

	項目	平均
教育理念 / 学校教育目標	1 本校の教育理念「生きる喜びを抱き 自ら学びを拓く」を意識した教育活動を行っている。	3.3
	2 本校の学校教育目標「体験と探究を軸とした自律的な学びの創造」「自分らしく力強く希望に向かう意志の創造」「自治から発展させる共に生きる社会の創造」を意識した教育活動を行っている。	3.5
	3 「縦割りグループによる自治」を意識した教育活動が行われ、リーダーの育成や子どもたちによる課題解決を進めることができた。	3.5
	4 「テーマ学習」を意識した教育活動が行われ、教科や道徳、学活などをテーマに関連付けてより深みのある学習に結びつけることができた。	3.2
	5 「自然体験活動」を意識した教育活動が行われ、「感じて、考えて、創り出す」という一連の営みの中で、自然と自分の生活を結び付けて考えさせることができた。	3.4
	6 幼初連携では、内田学園としての一貫した教育理念を理解したうえで、幼稚園、初等学校それぞれの教育目標を実現するために有効な連携行事や幼児・児童による日々の交流、職員間の相互理解などを進めている。	2.5
教育課程	7 別紙「各教科等授業時数」を参照し、各教科等の授業時数は適切である。	3.1
	8 別紙「年間行事予定表」を参照し、学校行事については適切な時期に適切な目的・内容・時数(回数)で実施されている。	3.0
	9 テーマ学習のテーマは時期を捉えた適切なものであり、ねらいや内容、時数など、子どもの興味関心が継続するよう工夫されている。	3.1
	10 テーマ学習を軸として教科や道徳、学活などを関連付けた学習は、年度当初の計画に基づき効果的に実施されている。	2.9
	11 SDGs(持続可能な開発目標)に基づく年間テーマは各テーマ学習に有効に関連付けられ、SDGsの目標達成に向けた取り組みに結びついている。	
	12 幼初連携に関わる教育活動を年間計画に位置付け、双方にメリットのある目標を掲げ、実施している。	2.8
	13 児童の実態に合った日課や時間割を編成しており、子どもの学びや遊び、休憩等に無理なく実施している。	3.0
学校運営	14 学校教育目標達成に向けて、校長などの管理職がリーダーシップを発揮し、それに基づいて職員が一致団結して教育活動に取り組んでいる。	3.5
	15 校務分掌は適切に分担され、機能している。	3.0

○本校の教育理念及び学校教育目標を意識した教育活動が展開されているものの、学園としての一貫した教育理念の理解を職員に浸透していく必要があると思われる。

○今年度、コロナの関係で中止となってしまった幼初合同の研修会を来年度は早い時期に実施し、学園としての教育理念の理解やその具現化に向けた幼初職員間の協議を行っていきたい。

○月によっては、行事に追われかなり慌ただしかった。それぞれの行事の狙いの達成度や教科等へのしわ寄せを等を考えると、行事の精選について職員全員で協議し、実行していくことが必要である。

○本校卒業生の提案によるSDGsの取組は当初予定になかったが、校種を超えた取組で大変良かった。

※「11」については、今年度SDGsに基づく年間テーマの設定ということではなかったので、評価を削除。

○ミーティングで提案される内容やその提案時期については、教育計画に明記されたことよってぎりぎり

営 組 織	16	学校運営の各分野における責任者が明確化され、その責任者を中心とした企画・提案が適切な時期にあり、全職員協力のもと実行されている。	3.2
	17	ミーティングの頻度や方法は適切で、誰もが意見を言える雰囲気機能している。	2.7
	18	学校法人ガバナンス(健全な経営を目指す管理・統治体制)が適切に行われている。	3.0
安 全 管 理	19	学校安全計画や防災・防犯指導計画が整備されており、職員は承知していつでも実践できるようにしている。	3.3
	20	災害や学校事故等の緊急事態発生時の対応がマニュアルとしてまとめられており、職員はすぐ確認し、実践できるようになっている。	3.3
	21	地震や火災、不審者侵入等に対する訓練が実施され、児童は対応の仕方を承知している。	3.4
	22	安全点検が定期的実施されており、不備のある箇所はすぐに修繕や取替等が行われている。	3.5
	23	校舎内外の環境が健康的で、安全に保たれている(空気、照度、電気、時計、トイレ、物置等)。	3.1
	24	重要諸帳簿、現金等の管理は鍵のかかった所に一定のルールのもとに保管されている。	3.6
	25	個人情報に関わるデータ等は勝手に持ち出しができないように管理されている。	3.5
学 習 指 導 ／ 学 級 指 導	26	登下校時に関して、坂の下十字路の横断・飛び出し等に対する安全対策やバス運行時の車内の安全対策などが十分に行われている。	3.3
	27	テーマ学習のテーマと結びつけながら、教科等の年間計画を再構成したうえで、学年で履修すべき内容をすべて指導している。	3.3
	28	個別指導やグループ別指導、習熟度別指導、児童の興味関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的学習など、個に応じた指導方法の改善を図っている。	3.6
	29	ノーチャイムを生かした柔軟な時間設定や可動式ホワイトボードを生かした場の設定など、最適な学習環境づくりに努めている。	3.4
	30	視聴覚教材の利用やICTの積極的活用によって、分かりやすい授業の工夫に努めている。	3.6
	31	担任と教科担任と連絡を密にとり、効果的な指導を図っている。	3.1
	32	外部人材を活用した授業についても積極的に実施している。	3.6
	33	学習評価について、教科ごとに発達段階に応じた評価規準を設定し、学期末の観点別評価や所見に反映するとともに、それをもとに指導と評価の一体化を意識し、指導方法の工夫・改善や指導力の向上に努めている。	3.2
児	34	児童の実態に応じた目標を定めて学級経営案を作成し、毎学期、目標の達成状況を検証している。	3.6
	35	本校のいじめ防止方針に基づき、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に全職員で取り組んでいる。	3.5

の提案になることなく改善された。

○ミーティングの持ち方については、もっと活発に意見が出やすい手法を現在試行錯誤している。

○安全点検の実施とその後の対応について、もれなく迅速にできるよう安全点検表の改善を図り、常に安全な状態が保たれるようになった。

○個人情報に関わるデータ管理についても、私物のデバイスを管理職の許可制としたほか、データ持ち出しが必要な際は管理職許可のもとパスワード付きの指定USBに限るなど改善を図った。

○今年度は授業におけるICTの活用場面が広がり、また、移動式の大型モニターも購入できたことにより内容や進度など個別最適化への意識が高まり有効に機能した。

○学級経営については、毎学期一人ひとりの児童理解に努め、全体で共有を図ることができた。

○学校生活に関するアンケートとそれに基づく児童と

童 指 導 ／ 支 援	36	学校生活に関するアンケートや児童・保護者との面談を通して、児童・保護者の悩みや心配等に寄り添う対応をしている。	3.7
	37	児童指導に関する報告は児童指導担当を通して管理職にも報告され、必要に応じて情報を全職員で共有し、保護者への連絡など適切に対応している。	3.4
	38	児童が自ら考え、自主的・自律的に行動でき、その言動に責任を負うことができるよう、普段の授業や道徳に加え、あらゆる教育活動の場面で積極的な児童指導に努めている。	3.2
	39	児童が悩み事を聞いてもらったり、クールダウンしたりする場所として保健室が機能している。	3.1
	40	スクールカウンセラーに定期的に児童の様子を観察してもらったうえで、児童の成長・発達に必要な助言等を職員及び保護者が受けている。	3.4
総 合 学 習	41	「希望」の年間計画に基づき、児童自らが課題を発見し解決に向けて取り組むための目標・内容を設定し、探究力、社会力、生活力を養う実践をしている。	3.3
	42	「暮らし」の年間計画に基づき、季節や地域文化、年中行事等に合わせた目標・内容を設定し、探究力、社会力、生活力を養う実践をしている。	3.3
	43	「プロジェクト」の年間計画に基づき、児童が関心をもったテーマを設定し、自ら学習計画を立てて探究的な自律的学習を進めるための指導・支援を行っている。	3.1
そ の 他	44	「特別の教科道徳」においては、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てよう実践している。	3.1
	45	「クラブ活動」は、児童の興味・関心に応じて適切なクラブ数や人数でその目的を達成している。	3.4
	46	「委員会活動」は、児童会運営上の必要に応じて適切な委員会数や人数でその目的を達成している。	3.2
	47	児童会活動において、役員の数や人数は適切で、公正・公平な運営のもとに人選が行われ、選ばれた役員を中心に児童自らが学校をより良くしていこうとする仕組みが整えられている。	3.3
	48	学校農園(畑・田)は年間を通して適切に管理され、栽培・収穫等の体験活動を通して児童の学習に有効に生かされるとともに自然と自分たちの生活の関係について気付かせることができている。	3.3
	49	旅行的行事(修学旅行・遠足)は、その目的を児童自身が追求する中で学年(学校)としての行き先を決め、事前・当日・事後の学習を通して自分の学びたいことを自ら深めようとしている。	3.6
	50	清掃指導は、縦割りグループの高学年が清掃の仕方や分担、反省などの面でリーダーシップを発揮できるよう指導し、清掃活動を通して協働して学校に貢献する喜びを感じさせている。	3.0
	51	朝の集いの時間は、児童の意欲をかき立てるとともに落ち着いて1校時の授業に取り組めるような内容や指導法の工夫をしている。	3.0
52	全体ミーティングでは学校生活に関わる諸課題について、児童自らが解決しようと話し合いを進めるなど自治を意識した活動の場となっている。	3.4	

の個別面談を定期的に行うことで、児童のちょっとした心の変化や不安などに気づき、職員間で共有できたほか、保護者とも有効な連携が取れた。

○今年度は、児童支援にあたる職員を土曜日に配置したが、2月中旬からは平日にも勤務日を増やし支援に対する対応を手厚くした。来年度についても平日の支援員を継続していく。

○コロナの影響で、調理の比重が高かった「暮らし」の内容を見直す契機となり新たな発見があった。
○今年度より始めた「プロジェクト」は難しさはあったものの成果と課題が明確になったので、模範的な探

○今年度の修学旅行(東日本大震災について学ぶために宮城・岩手に旅行)については、6年生児童がその目的をしっかりと理解したうえで、具体的な旅行計画を自ら立て、実際に現地で様々な立場の方々の話を伺い遺構等を訪問することで深い学びにつながった。

○児童会が中心となり今年度より始めた全体ミーティングは、児童の関心も高く、自分たちで学校をよりよくしていこうという機運が醸成されつつある。子どもたちの提案・話し合いから、放課後時間やティータイムの復活につながった。

○十八番朝会を行う側も見ると児童にとって楽しい朝会となっており、生き生きとした子どもの姿を感じることができている。

○人権教育では、今年度は特に社会福祉協議会の協力を得て、「高齢者疑似体験」と「視覚障がい者誘導体

他の教育活動	53	十八番朝会では、誰にとっても自分の得意なことや努力していることを発表できる雰囲気があり、朝会を通して自己肯定感を高めたり、他の児童の良さや努力を認めたりする場となっている。	4.0
	54	人権教育では、差別と偏見に気付かせるワークショップ等の他、日常のあらゆる教育活動の中で人権の視点をもって取り組んでいる。	3.3
	55	安全教育では学校安全計画に基づき、日常の予防行動の他、児童自身が危険を予知して回避行動をとったり、危険に直面したときに最善の対策が取れたりするよう意識と行動力の向上に努めている。	3.2
	56	キャリア教育では、児童の立てた目標とその成果に対して適正に評価し、児童が希望に向かって自らの力で進んでいけるよう常に励まし努力をたたえている。さらに、その経過をポートフォリオ(キャリア・パスポート)として保管し、自分で振り返り、自己の生き方を考えることができるようにしている。	3.1
	57	図書教育では、児童の興味・関心や学習に応じた図書を随時選書・配架し、学習計画の中に位置付けて積極的に活用している。	2.6
	58	外国語教育(外国語活動・外国語科)では、児童が外国語によるコミュニケーションを通して外国の言語や文化、考え方等を理解しようとする態度を養うとともに、発達段階に応じて「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと(やり取り)」、「話すこと(発表)」、「書くこと」の5領域の目標を達成している。	3.2
	59	情報教育では、コンピューターの基本的な操作の他、情報モラルや情報手段を適切かつ主体的、積極的に活用できるための学習活動を行えるよう指導している。	3.3
	60	ICTを活用した授業を積極的に進めており、児童の柔軟な発想を引き出したり、理解を定着させたり、発表力を高めたりすることに効果的に結びついている。	3.3
	61	プログラミング教育では、論理的思考力や創造性、問題解決力等の育成を目的とし、既存の教科等の中で、プログラミングの体験を通してプログラミング的思考により課題解決をしようとする授業を実施している。	3.2
保健管理／給	62	学校保健計画に基づいて適切に健康診断や保健指導等が行われている。	3.7
	63	学校で起きたけが等に対して、適切に対応し、再発防止に努めている。	3.5
	64	日常における教室等の環境(換気・温度・照明・騒音)や飲料水等の水質などが定期的に点検され、適切に保持されている。	3.5
	65	家庭での毎日の健康観察が適切に行われ感染症対策として機能している。	3.1
	66	消毒や換気、ソーシャルディスタンス等感染症対策を入念に行うとともに、陽性者が出て感染拡大の危険性がある時の対応フローチャート等も整備されている。	3.5
	67	新型コロナウイルスに関する情報や対応が随時更新されて保護者にも連絡されており、陽性者や濃厚接触者が出た場合の対応や情報発信等も迅速である。	3.7

験」を実施した。体験をすることによって子どもの中で、新たな気づきが生まれ、共に生きるということを意識する契機となった。

○図書教育では、今年度、蔵書の点検・整理をしていく中で、本を検索しやすくするためのバーコード化なども進めたが、手軽にデバイスを操作する環境を整えることができず、バーコードの活用は思ったほど進まなかった。来年度は、デバイスを1台手軽に利用できる環境を整え、子どもたちがバーコード検索しやすいように改善していく。また、授業で使いたい本をすぐ手に取れるような配架体制にするため、必要な本リストを事前に作成し、市の図書館から順次借り入れるようにしていく。

○今年度もコロナ対応に追われ、臨時休業もあったが、校内の感染症対策は文部科学省や県のガイドラインに基づいて適切に行うことができた。また、感染者や濃厚接触者の療養期間等についての変更に対しても学校医の助言を受けながら迅速かつ柔軟に対応することができた。

○健康観察の協力を保護者にさらに促していきたい。
○給食の配膳について、コロナの状況を見極めながら

食 関 係	68	学校医との連携を密にし、適時相談して助言を受ける体制が整っている。	3.2	教員が行っていたものから児童によるものへと移行を 考えている。
	69	給食の運搬、配膳、片付け等に関して適切な衛生管理が行われている。	3.3	
	70	給食の準備、喫食、片付け、歯磨き等の時間が適切に確保され、児童にとって昼食の時間が楽しい 時間となるよう工夫している。	3.2	
	71	児童が栽培した農作物を給食に提供する他、大豆の加工・調理などを通して適時食育を促進し、 一方で児童の味覚の幅を広げたり、給食の残食を減らしたりなどの努力をしている。	3.8	
職 員 研 修	72	学校の教育活動を進めていく中で、教職員の服務や現代的課題に対する指導力の向上、これからの 学校教育の在り方等について、内部で外部講師を招いたり、外部に出向いたり、オンラインでの 研修機会があったりと、教職員は積極的に自ら学ぶとともにそれを波及させる研修報告をしてい る。	3.1	○校外でのオンライン研修などは積極的に受講できた が、校内の研究授業は少数にとどまってしまった。授 業について日々話し合いは充実しているので、その 延長上という意識で進めていきたい。
	73	校内において、教員がお互いの授業を参観し合い協議することを通して、自らの指導方法改善や 授業力向上に生かすことができている。	2.3	
情 報 発 信	74	学園だより、学校だより、学年だよりの定期的な発行の他、ホームページでの情報発信などにより、 学校の教育活動や児童の様子などが、保護者をはじめ一般の方々にも積極的に理解してもらえる ように努めている。	3.7	○ホームページは行事のみならず日々の子どもの様子 も積極的に発信できた。
	75	緊急に情報発信が必要な場合には、「安心でんしょぼと」を活用して、迅速に分かりやすい情報を 発信している。	3.9	
地 域 と の 連 携	76	学校近隣の住民には、学校運営上の様々な面で迷惑がかからないように配慮がなされ、良好な関 係が築かれている。	3.4	○近隣住民の方々との関係は良好で支援も頂いてい るが、貢献も積極的に行っていきたい。校内の放送や音 楽の周辺への漏れに対する配慮が必要である。
	77	教育活動を進めていくうえで、地域に貢献したり、地域の方々にも授業を支援していただいたりす る活動を行っている。	3.5	
働 き 方	78	休暇や遅刻・早退など取得しやすい雰囲気の中、職員が互いに助け合う体制がとれており、自分の ワークライフバランスが保たれている。	3.1	○今年度の自己評価におけるもっとも課題と思われる 分野である。業務量の見直しを図る上では、純粋に教 職員の担うべき業務とそうでない業務を選別し、保護 者の理解も進めていく必要があると思われる。
	79	任されている業務量は無理がない範囲であり、超過勤務(目安:1か月45時間)が大幅に増えてし まうことはない。	2.5	
	80	学校行事や総合学習の役割分担において、職員間の業務量に大きな差がなく、任された業務に対 して前向きに取り組むことができている。	3.0	
	81	肥大化している業務の削減や効率化について考え、実行しようと努力している。	2.9	